

2016年9月、米ホワイトハウスでの表彰式でオバマ前大統領(右)と並ぶグリユックさん(AP=共同)



個人的で柔らかい詩のトーン

阿部公彦東京大教授(英米文学)の話 ウォルト・ホイットマン以来の、相手を説き伏せるような声高でマッチョな米国詩の伝統とは違い、ルイーズ・グリユックさんはもう少し個人的な柔らかい声で語る。環境の中に混ざり合うような声のトーンが印象深く、独特の哀歌的な調子はその詩の読みどころです。ジャーナリスト的な派手な作風ではなく、デリケートで技術的にも完成度の高い作品が評価され、文学という分野に適切なスポットライトが当たるのは良いことです。

ノーベル文学賞に米女性詩人

孤独・離婚…喪失の美学

米国の女性詩人ルイーズ・グリユックさんが今年のノーベル文学賞を受賞した。凝縮された言葉で奏でられる悲しみ、そして孤独。

病弱だった10代、離婚。波瀾万丈の半生から紡ぎ出された表現は陰影を帯び、時には幼少期から親しんだギリシャ神話や聖書のモチ

ーフと合わさって孤高の存在感を醸し出す。自分を多く語らず人前に立つのが苦手。「喪失の美学」を追求し続ける米国で最も才能の

ある詩人の

1943

ークでハインリッヒの家庭で神経性の

されるようにりも治療ア大に入(へ)がない。

秘書とし

ゲノ

【ワシ

のゲノム効率的に年編集の新しい年のノーベ

った米カリークリー・

・ダウドと

日、オニシ、「女性同じよう

選党補シカ

民

共

ンス副大統領(民主党のハリス上院議員(ゲッティ=共同))

アヒールにワイトハウス